

特定非営利活動法人 地域おこし
2019年度 年次報告書





《 ご挨拶 》

いつも当NPO法人地域おこしにご支援頂き感謝申し上げます。
2004年の中越袋震災を契機に活動を開始し15年目の年となりました。
昨年から今年にかけて大変残念な訃報が続きました。昨年6月末には池谷の長老で村おこしの牽引役であった津倉の親爺さん（曾根武さん）が闘病の末亡くなくなりました。そして年明け2月に民宿かくらのお母さん（近藤ナオさん）がくも膜下出血で亡くなり、4月には同じく一緒に頑張ってきた隠居の親爺さん（庭野功さん）が田んぼで倒れ帰らぬ人となりました。ご冥福をお祈りします。37軒から最少6軒13名にまで減少した集落が、一旦は20数名まで回復しましたが、ここに来て大きな節目を迎える事になりました。引き続き池谷集落存続の活動を進める事が故人の想いに応える事でもあると考えております。

さて、昨年は農地の引き継ぎと集落存続に欠かせない米乾燥施設（ライスセンター）がようやく完成し稼働出来ました。未だ建屋周辺の自前施工工事は残っていますが、年々増加する受託栽培面積に対応できる施設が整いました。

2020年が明けてより、新型コロナウイルス禍により世界がパンデミックに陥りました。この4月、FAO（国連食料農業機構）・WHO（世界保健機構）・WTO（世界貿易機構）は新型コロナに関して共同声明を発表し「食料品の輸出制限のうねりが起き国際市場で食料品不足が起きかねない」「ロックアウトによる農業労働者の移動制限や食料品の出荷が不可能になり混乱するリスクがある」と警告しました。食料自給率僅か37%（Calベース）の日本は食料安全保障上極めて危ういと言わざるを得ません。コロナ禍を機に農村移住を考える人が増えているとの見方も含め、今後増々農村地域の果たす役割は大きくなるものと考えます。

引き続きご支援頂きたく宜しくお願い申し上げます。

2020年6月

特定非営利活動法人地域おこし
代表理事 山本浩史

《 もくじ 》

ご挨拶・もくじ・職員紹介	1
私たちの活動	2
池谷・入山モデルづくり事業	3～6
地域おこし応援事業	7～8
書籍出版、youtube動画、 地域おこしの仲間募集、めぶ き入居者募集	9
会計報告	10
団体概要	裏表紙

《 職員紹介 》



私たちの活動

理 念

1. 池谷・入山地区の集落と農業の継続を実現しつつ、全国の過疎の集落が抱えている集落存続問題の成功例を示す。
2. 持続可能な新しい村づくりを実践し、循環型の社会モデルを目指し100年持続させる展望を示す。
3. 地元住民だけでなく地域外の関係者も含めて、新しい村づくりを進める。
4. 相互扶助と心豊かな社会実現を目指す。

まずは…

池谷・入山集落を存続させます！
・池谷・入山モデル作り事業

そして、

十日町市を元気にします！
・地域おこし応援事業

最終的には

日本の過疎の成功モデルを示し、
日本や世界を元気にします！
・地域おこし応援事業

池谷・入山モデル作り事業

●山清水米直販事業

・平成30年産米

山清水米の全生産者が新潟県の「特別栽培米」の認証を取得し、農民連に98俵（5,880kg）、食と農を考える飛渡の会（食農会）に52.5俵（3,150kg）出荷致しました。一般販売分としては、「山清水米」7236.05kg、「超特選 農薬・化学肥料不使用『山清水米』はざ架け米」（以下はざ架け米）330kg（平成30年10月中に予約分で完売）を出荷致しました。

・令和元年産米

農民連に70俵（4,200kg）、食と農を考える飛渡の会（食農会）に200俵（12,000kg）出荷致しました。一般配売分としては3月末時点の発送済と予約分で7383.15kg、はざ架け米601kgの販売量となっています。令和元年12月より十日町市のふるさと納税の返礼品の候補として取り扱っていただけたことになりました。

○加工品販売

山清水米白がゆは東京・兵庫の神社様から継続して注文いただいております。注文量・回数も増加しています。



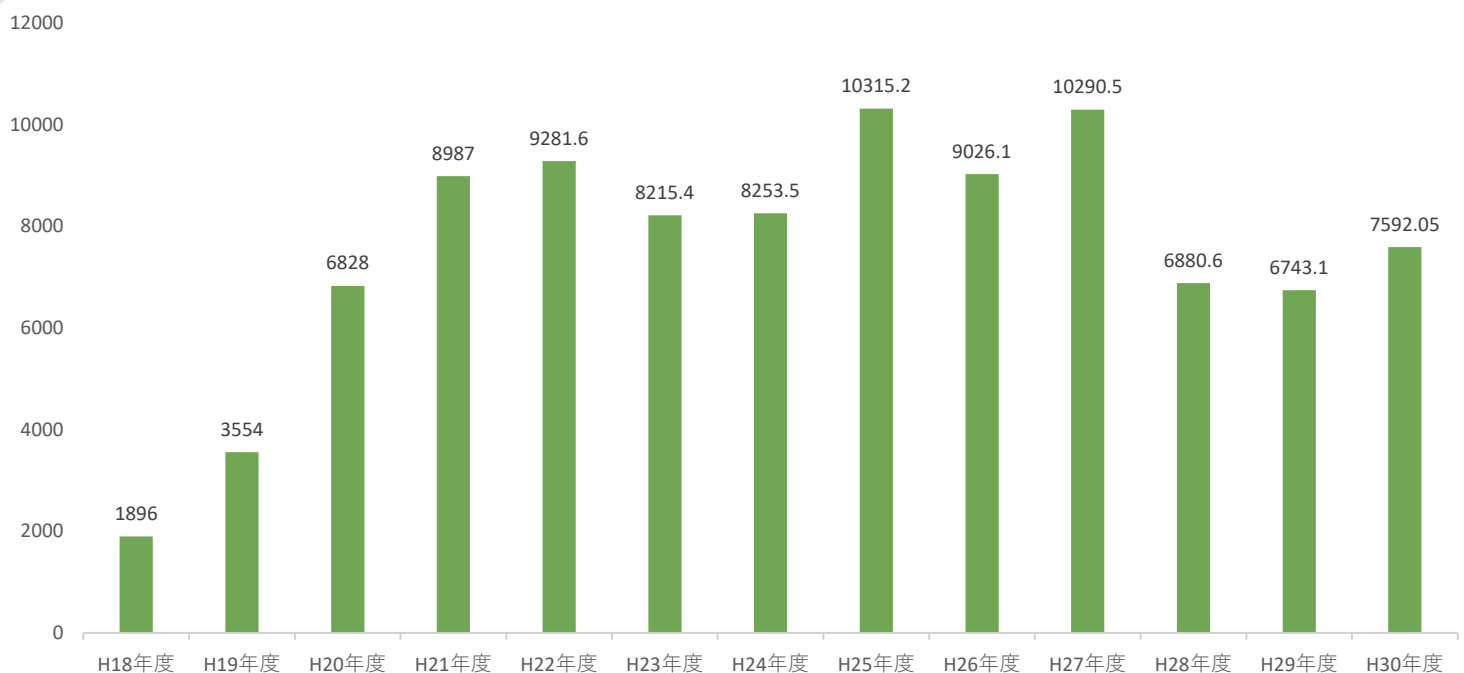
担当者からひとこと

山清水米販売担当
多田 美紀

R1年12月より十日町市へのふるさと納税の返礼品として山清水米をお選びいただけるようになりました。JTBのふるさと納税ポータルサイト「ふるぽ」のトップページのキーワード検索で「山清水米」と入力していただければと思います。また、コロナウイルスの影響もあり、お客様より「このような時に生産者から定期的に届けてもらえるのは有り難い」とお声をいただきました。今後も都会と田舎を手と手を取り合う社会を目指して、食と自然を守るべく微力ながら頑張りたいと思います。



山清水米 一般販売向け出荷量(kg)

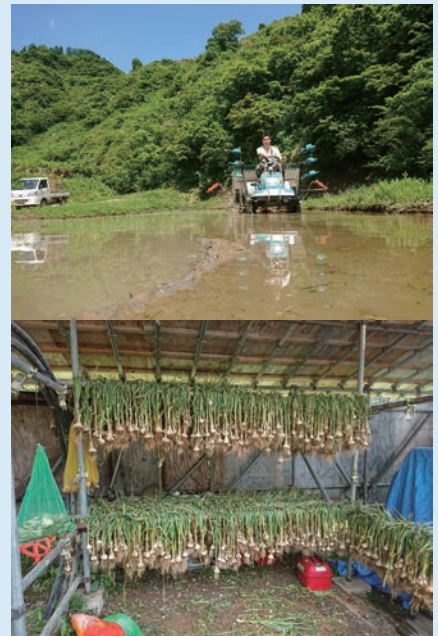


池谷・入山モデル作り事業

●農業生産

2019年度は田んぼの面積がさらに増え、4町8反1畝の田んぼを耕作することとなりました。収量は前年度よりは良かったですが、十分とは言えませんでした。また、夏場穂が出てからの高温と雨が降らず水不足であった事により、乳白米が多くなりました。今後の対策としては、土壌分析と現地指導をしてくれる肥料屋さんにアドバイスを頂きながら進めていく事で改善したいと考えています。

また、長年の念願であったライスセンターがついに建設できました。これにより、集落の高齢世帯から引き継いだ田んぼの収穫期にある程度の量の米を扱えるようになり、作業効率が良くなりました。効率が良くなった事で、秋のうちに翌年の作付の準備に時間を使い、より良い米作りができるようにしたいと思います。



担当者からひとこと

農業主担当
安藤 直人

神奈川県出身の安藤です。今年度は職員として初めての稲作となりましたが、雪不足の影響で水が少なかったり、暑さの厳しい日が続いたり、地元の方々も前代未聞の気候の中で、常に試される日々を過ごしました。反省の多い結果とはなりましたが、得るものも多い1年となりました。日々条件が変わる中で対応できてこそ一人前の農家だと思います。現時点ではまだまだ半人前以下の新米農家ではありますが、日々の作業や暮らしの中で様々なものを吸収して、お米を楽しみに待っている方々へお届けできるように頑張っています。



担当者からひとこと

農業副担当
森 孝寿

長年の悲願であったライスセンターが完成し、ギリギリのタイミングではありましたが、なんとか収穫作業に間に合う形で稼働させることができました。それにより、乾燥が終了したお米を一時的に保管する設備の増強が行われ、乾燥調整作業の効率化を図ることができました。また、フォークリフトの導入により、お米の運搬や搬出作業が短時間で行えるようになりました。今後もこの施設を存分に活用して、地域の財産である田んぼを守り継承していく活動を充実させていき、地域おこしのモデルケースとしてあり続けていければと考えています。

池谷・入山モデル作り事業

●体験交流

2019年度は6回の体験イベントを開催し、のべ参加人数は95名となりました。年間交流人口は608名でした。

2019年度主催イベント

実施日	イベント名	受入人数
4月27日	飛渡の山菜を楽しみ尽くす会！	6名
6月1日	田んぼへ行こう！（田植え）	33名
8月11日	池谷真夏のBBQ ～ジビエとビール 野菜収穫もあるよ～	17名
10月5日	田んぼへ行こう！（稲刈り）	28名
11月2日	新米を食べる会	6名
2月9日	かまくらでかき氷を食べる会	5名

春夏秋冬の季節のイベントと、田んぼへ行こう！を2回開催しました。季節のイベントでは、山菜採りや野菜収穫などその時期に体験できると旬の食材の料理を楽しんでいただきました。2019年度は例年にない少雪の年となりましたが、なんとか雪を集めてかまくらを作り、かまくらの中でかき氷を食べることができました。「かまくらでかき氷を食べる会」の様子は、地域おこしが開設したYouTubeチャンネルでも紹介しているのでぜひご覧ください。



各団体・イベントの受入れ

2019年度は学生団体の受入や、企業研修の受入を実施しました。企業研修の受入では、サツマイモ掘りでチームビルディング研修など池谷集落だからこそできる内容が好評でした。今後受入件数を増やしていきたいと考えています。

また、7月7日に「やまんなかマルシェ」の会場として池谷分校を提供し、200人が来場しました。

受入日	団体名	受入人数
8月3日	地域ビジネスづくりの会 （十日町商工会議所青年部）	20名
9月6日 ～12日	武蔵大学	20名
10月18日 ～19日	株式会社イントラスト	14名
10月18日	アウトドアインストラクター研修	10名
10月19日 ～22日	青山学院大学	5名



担当者からひとこと

体験交流イベント担当
福嶋 美佳

2019年度の特徴として、2018年度からの継続した交流があげられると思います。2年目となる棚田オーナー「山清水米みんなの棚田」では、イベントに積極的に参加していただく常連オーナーさんも増え大変嬉しい限りです。

また、2018年度に滞在してくれた学生さんのつながりで武蔵大学のボランティアサークルの皆さんが滞在してくださったり、青山学院大学の皆さんが有志で再訪くださいました。多くの方に何度も来たいと思っていただけるような交流を、今後も続けていきたいと思っています。